

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 103	提案機関名 よこすか葉山農業協同組合
要望問題名 三浦半島におけるウリ科野菜（スイカ、メロン）つる枯病菌の各種薬剤に対する感受性の調査について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 近年、三浦半島におけるスイカ、メロン栽培においてつる枯病の被害が目立つようになってきている。予防及びローテーション散布が行われているものの、現地ではQoI剤の一部（アゾキシストロビン）の感受性低下が指摘されているほか、他薬剤においても期待した防除効果が得られない事例も見られる。こうしたことから、つる枯病菌のSDHI剤、他薬剤に対する感受性調査結果に基づく、効率的かつ効果的な防除が必要となっている。 スイカ作付面積 三浦市381ha、横須賀市35ha（平成18～19年神奈川県農林水産統計年報） メロン作付面積 三浦市55ha、横須賀市13ha（平成17～18年神奈川県農林水産統計年報）	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	三浦半島地区事務所研究課 生産環境部病害虫研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 生産環境部が2011年7月に三浦半島地域の29地点からウリ科野菜つる枯病菌を収集し、QoI剤、ベノミル剤およびプロシミドン剤に対する感受性検定を行いました。その結果、QoI剤については、29ほ場中27ほ場で耐性菌が発生しており、耐性菌率は約70%でした。QoI剤耐性菌に対するアゾキシストロビン水和剤（商品名：アミスター20フロアブル）の散布試験を行ったところ、防除効果は認められませんでした。現場においても、QoI剤の防除効果は著しく低下していると考えられ、使用を中止するべきと考えます。ベノミル剤（ベンゾイミダゾール系、商品名；ベンレート水和剤、トップジンM水和剤、トップジンMペースト）の耐性菌率は37.6%、プロシミドン剤（ジカルボキシイミド系、商品名；ロブラール水和剤、スミレックス水和剤）は0.9%でした。まずは、現在の防除指針が上記の内容に配慮したものになっているか確認をお願いします。防除体系の改善が必要な場合は協力します。また、SDHI剤への耐性が疑われる場合は新たな調査が必要になるため情報提供およびサンプルの提供をお願いします。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考 現在、SDHI剤に対する感受性検定方法は確立されていない。			